令和８年度　古賀市立千鳥小学校　学校経営要綱

令和８年４月

Ⅰ　学校経営の基盤

（１）公教育としての基盤に立つ学校

日本国憲法、教育基本法をはじめとする教育関係諸法規、および福岡県・古賀市の教育施策並びに学習指導要領に則り、公教育としての責務を果たす。

（２）現代社会の要請に応える学校

公立小学校である古賀市立千鳥小学校の教職員は、子ども一人ひとりに持続可能な社会と豊かな人生の創り手としての資質・能力を育成する。全ての子ども達の可能性を引き出すための「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に実現し、「令和の日本型学校教育」の具現化を目指す。

（３）児童・保護者・地域の願いに応える学校

本校はコミュニティ・スクールであることから、社会に開かれた教育課程の充実を図り、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という学校教育の意義を保護者及び地域住民と共有しつつ、連携して自立した古賀市民となれるように子どもを育成する。

（４）人権・同和教育の充実

人権教育を教育活動の軸に据え、子どもが将来の夢や目標の実現に向けて主体的に学びながら安心して学校生活を送ることができるようにするとともに、我々教職員も学び手の一人であると自覚しつつ教育活動を実践する。

これらの基盤のもと、私たち千鳥小学校の教職員は、児童一人ひとりの人権を最優先に尊重し、互いを認め合う支持的風土を醸成するとともに、高め合う仲間づくりに努める。誰もが失敗を恐れず、ありのままの自分でいられる「心理的安全」を確保することで、子どもたちが「明日も行きたい」と心から思える学校、そして主体的に「学びたい」と願う学年・学級の創造を目指す。

２　本校の教育目標と目指す子ども像　*～チーム千鳥小が育てる資質・能力～*

千鳥小学校の教育目標
未来に続く『千鳥』と豊かな人生を創り出す子どもの育成

教育目標に対する校長の見解

『千鳥』とは、子どもたちの学び舎である千鳥小学校そのものであり、共に歩む地域、そして古賀市を指す。私たちは、この『千鳥』の「ひと・もの・こと」と深く関わり、支え、支えられながら成長していることを、子どもたち自身に実感させたいと考える。 日々の関わりの中でふるさとへの感謝と誇りを育むことは、現在のみならず将来において、多様な他者や社会のために考え動くことができる「社会の創り手」を育成することへとつながる。

「豊かな人生を創り出す」とは、今と将来の目標をもち、主体的に学ぶことで、確かな学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力等）を身に付け、その目標の実現に向けて力強く生き

ていく姿を指す。子どもたちが仲間と協働し、自分たちの手で持続可能な地域社会を築くとともに、自らの幸せな人生を主体的に切り拓いていく力の育成を目指す。

そのために、「自分を大切にし、健康に生きる基盤をつくること」、「自分はどうありたいかという目標をもち、知識を主体的に身に付けること」、「多様な他者と協力し、よりよい地域を実現するために動くこと」これらの資質・能力を育むことを目指す。学校での学びを、自分自身の生き方を磨く力へと変え、さらにそれを地域の課題解決や発展につなげていく。

本年度もこの目標と次の目指す子ども像を継承し、その達成を図っていく。

― 千鳥小で学ぶことは、自分の生き方をみがく力 ―	
○ 豊かな心と健やかな体を追い求める子ども	**【よりよく生きる子（徳・体)】**
○ 未来を創るために学ぶ子ども	**【すすんで学ぶ子 （知） 】**
○ 協働して『千鳥』に働きかける子ども	**【みんなでつくる子（公） 】**

（１）豊かな心と健やかな体を追い求める資質・能力

「豊かな心と健やかな体を追い求める」とは、自分も他者もかけがえのない大切な存在であるという認識に立ち、道徳的価値に向き合い、健康な心身の維持・向上に努めながら、様々な場や状況においていかに生きるべきかを自己選択・自己決定し、実践していくことである。健全で自立した個人かつ地域社会の形成者として必要な資質・能力であるとともに、本校が目指す３つの子ども像の中心をなすものである。

（２）未来を創るために学ぶ資質・能力

未来とは、持続可能な社会としてのふるさと千鳥、その先にある古賀市、日本・世界の姿と子ども自身の幸せで生きがいのある人生である。「未来を創るために学ぶ」とは、「自分はこうありたい、こうなりたい、こうしたい」等の目的・目標をもち、その実現に向け知識及び技能と思考力・判断力・表現力等を主体的に得ていくとともに、その学びをつかって課題を解決した自分のよさを実感することである。持続可能な社会と豊かな人生を創り出すために、生涯にわたって学び続けるための資質・能力である。

（３）協働して『千鳥』に働きかける資質・能力

『千鳥』とは、千鳥小学校、校区ひいては子どものふるさとである古賀市である。「協働して『千鳥』に働きかける」とは、自分のみならず多様な他者や社会のために考え動く心のもと、よりよい『千鳥』の実現に向けて、課題を見出し、解決のための計画を立て、多様な立場の人と自他がもつ力を合わせて「もの・こと」を創り出すことである。未来に続く『千鳥』と豊かな人生を実現していくための実践的な資質・能力である。

３　目指す教職員像　*～教育目標の達成を実現させる教職員の姿～*

本校の教育目標を達成するのは、我々教職員一人一人であり教職員集団「チーム千鳥小」である。我々は、公教育に携わる教職員として確固たる教育理念、決して不祥事を起こさない強い決意と倫理観をもちつつ、自らが社会の創り手として子どものモデルとなれるように努める。

また、我々がチームとなるための行動指針として「目標に向かって励み合う」「互いを認めて尊重し合う」「悩みを共有してサポートする」「仲間のチャレンジを応援する」を掲げる。

以上を踏まえ、本校が目指す教職員像を設定する。

○　人権尊重を貫き、児童の自尊感情を育み、その可能性をのばすことに力を尽くす教職員
【よりよく導く教職員】
○　謙虚に自分を見つめ、自らの目標に向けて改善し続ける教職員　【すすんで学ぶ教職員】
○　多様性を認め、相互に学び合いながら学校教育における新たな価値を創り出す教職員
【みんなで創る教職員】

4　目指す学校像　*～千鳥小学校のブランド～*

本校が目指すのは、子ども、保護者及び地域住民にとって、魅力があり誇りに思える学校である。具体的には、子ども、保護者、地域住民にとっての学校を目指す。

○　「かわれる、わかる・できる、つくれる」自分を実現できる学校　【子どもにとって】
○　安全・安心な学校　【子ども、保護者にとって】
○　共に育てるためにかかわりたくなる学校　【保護者、地域住民にとって】

5　教育課題・経営課題　*～チーム千鳥小が解決すべき内容～*

（1）教育課題

【よりよく生きる子】
- ●　相手意識をもち、他者や集団、社会とよりよくかかわっていく資質・能力の育成
- ●　自分の心身の健康について考え、自分にあった方法で体力や健康を維持、増進していく資質・能力の育成

【すすんで学ぶ子】
- ●　こうなりたいという目標をもち、課題に応じて解決する方法を自ら選択し、自他の力を合わせて粘り強く取り組みながら確かに学びを獲得していく資質・能力の育成

【みんなでつくる子】
- ●　生活科、総合的な学習及び特別活動を中心に、計画的に協働して「もの・こと」をつくりあげよりよく更新していくことができる資質・能力の育成

（2）経営課題

【よりよく導く教職員】
- ●　児童の学習意欲を高め、確かな学力の向上につながる個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る教育活動の具現化

【すすんで学ぶ教職員】
- ●　ワーク・ライフバランスを取りながら、福岡県教員育成指標を基に教職員としてのキャリアステージを自ら見据え、教職員としての資質・能力を向上させていく人材の育成

【みんなで創る教職員】

● 自らの責任と役割を自覚し、子どもに寄り添いながら、教育目標の達成に向けて協働的に取り組む教職員集団

● 教職員のみならず保護者、地域住民等とも連携しながら、目指す学校づくりを組織的に実現していく教職員集団の形成

6 重点目標 ～学校の教育目標達成に向けて本年度目指す子どもの姿～

学びの主体者として学習をよりよく調整しようとする子どもの育成

昨年度は、「学びの主体者として学習を調整しようとする子どもの育成」をめざして教育活動に取り組んだ。本年度は、昨年度の目標をさらなるスキルアップを目指し、「学びの主体者として学習をよりよく調整しようとする子どもの育成」をねらいとする。よりよく調整するとは、子どもが自己の成長を見通し、課題解決に向けて最適な学びを選択・調整しながら、主体的に学びを創造していく姿のことである。自分の状況に応じてどのように学んでいくか、その結果がどうだったのか、次にどうするかという、学びの過程をつくっていくための資質・能力のさらなる向上を図る。

具体的には、全ての教育活動において、次の４つの姿の具現化を目指す。特に◎の内容は、最優先課題とする。

◎ 自分の状況から学びの具体的な目標を表し、学習の計画を立てる。

○ 目標達成に必要な自他の情報を選び、関係づけて考え等をつくる。

○ 目標と現状を比べ、学習の計画や取り組む内容を考え直す。

○ 自分の学びや取組を振り返り、学習を通して得た自他のよさを見つける。

さらに、この重点目標の達成に向けて次の３つについて注力し、児童が安心して主体的に学ぶことができる環境を整える。

① 自分の考えを安心して話せたり、失敗しても「大丈夫」と思えたりする。ありのままの自分が受け入れられている実感をもつことができる学級集団を育む。

② 仲間の発言に「なるほど」「いい考えだね」と反応できる。自分との違いを否定せず、互いの存在を尊重する空気を醸成する。

③ 仲間の力を借りたり、仲間に教えたりしながら、集団として一歩前へ進もうとする意欲を育てる。

7 経営の重点方策 ～教育課題・経営課題解決のための取組～

我々は、次の基本方針に則って重点方策に取り組む。

【千鳥小はチームで育てる】

◎ 複数の教職員で一人の子どもを「みる」。

○ 子どもにとっての最適解を考え続ける。

○ 教職員と関係職員・機関相互の専門性が発揮できるように連携する。

［方策１：共通方策］【全学年、全プロ】

・相手意識をもち、互いを認め合う支持的風土の醸成と、高め合う仲間づくりを目指す学級経営

［方策２：よりよく生きる子を育む方策］

（１）他者や集団、社会とのよりよいかかわりの内容を重点とした人権教育、道徳教育の実践【プロ A、E】

・地域のひと、もの、ことを扱う生活科、総合的な学習、４年生し尿処理学習及び６年生社会科歴史学習を軸とした教科等横断的な学習による人権教育の展開
・①他者の思いや状況等を想像する活動②自分の生き方・考え方と学んだ道徳的価値をつなげて考える活動が位置づく道徳教育の展開
・挨拶と「ありがとう、ごめんなさい、それいいね」の３つの言葉が言い合える集団づくり

（２）自ら健康で丈夫な自分をつくる教科等と健康的行事の実践【プロ C】

・自他の生命を尊重する意思決定や行動選択ができることをねらう健康・安全教育の展開
・自分の心身の様子や変化、運動能力の向上及び体力増進を実感できる「自分データ」のログ化とその活用

［方策３：すすんで学ぶ子を育む方策］

（１）個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実が図られた授業の改善【研究推進、プロ D】

・子どもが自己調整しながら学びを進める授業の具体化と共有

（２）確かな学力の向上を図る学習指導の実施【研究推進】

・学力の向上をねらいとする四部位層で分析した子どもの実態に応じた習熟度別学習の実践
・全ての子どもが学びを止めないための支援体制の確立

（３）複数の教師で一人の子どもを「みる」学習指導の実践【四者会、学年主任会】

・交換授業、専科、一部教科担任制による学習指導及びチーム担任制による柔軟な学習集団による学習等、学級担任以外の教師による日常的な授業実践と評価の充実

［方策４：みんなでつくる子を育む方策］

（１）学びや取組を発表したり多様な人と交流したりする場がある単元、行事等の充実【プロ B、E】

・導入段階で目的と具体的なゴール像を子どもと教師が共有した後に活動を展開する活動構成による教育活動の実践
・地域貢献の視点で見直す学校の各種行事の評価、改善とカリキュラム・マネジメント

（２）自分たちで学校環境を改善していく活動の工夫【プロ E】

・子どもが主体となって学校改善に取り組めることをねらいとする特別活動の実践

［方策５：目指す学校像、教職員像実現の方策］

（１）教育課題、経営課題の解決に向けた研修の実施【四者会、研究推進】

・管理職との面談を通し、キャリアステージに応じて計画する各種研修の積極的な受講
・算数科を軸とした本年度の重点目標達成に向けた ICT 活用の研修を含む主題研究の推進

・働き方改革や不祥事防止といった公教育を巡る今日的課題への対応、教職員のニーズに即した一般研修等の実施

（２）安全、安心の学校を実現させる組織的な取組の推進【プロ A、C、D】

・生徒指導主任を中心として他関係機関・専門性のある外部人材との連携も含めて実施する、いじめ、不登校等の諸問題に対する未然防止、早期発見、早期対応とその見取り
・生徒指導部を中心としたいじめに特化したアンケート、生活アンケート、学校生活・環境多面調査等の効果的活用による実態把握と教育相談・支援の組織的推進
・子どもの登校、心身の健康状況の把握と速やかな支援態勢確立のための ICT 活用の推進
・特別支援教育校内委員会及び校内教育支援委員会を中心とした、個別の教育支援計画・指導計画による学習プログラムの充実、教育的ニーズの把握と共有及び他関係機関・専門性のある外部人材との連携
・保健主事を中心とした学校環境の安全性の維持・向上
・命にかかわる個別の配慮事項の共有と緊急事態に適切に対応する態勢の確立

（３）学校、家庭、地域と共に育てる協働の教育活動の推進【四者会、全学年、プロ B、D】

・各ゲストティーチャー、ボランティアの計画的・効果的活用とそれぞれの方々の思い、願いが反映する教育活動の工夫
・情報発信、オンラインによる指導・支援の工夫
・学校での学びを家庭、地域で発揮し、学校で学び直す「学びのサイクル」の機会づくり
・千鳥小 PTCA 活動の再構築（保護者の積極的な関わりや応援態勢）

（４）教育活動の質を改善する評価システムの確立【四者会　学年主任会】

・３つの子ども像を観点とする各教育活動の目標設定と評価、改善のサイクル化
・各種アンケート等の分析と検証の共有の効率的、効果的なサイクル化

令和８年度　古賀市立千鳥小学校　コミュニティ・スクール構想図

経営理念：人と社会の未来を育てる

学校の教育目標　未来に続く『千鳥』と豊かな人生を創り出す子どもの育成

～千鳥小で学ぶことは、自分の生き方をみがく力～

地域

○　地域社会の一員としての自覚をもち、学びを生かし、他者と協働しながらよりよい地域づくりにかかわる

●千鳥校区コミュニティが企画する事業　●地域主催の各種行事
●地域ゲスト・ティーチャーによる指導、支援

家庭

○　社会生活で生きるマナー・モラル・ルールの基礎を知り、自分のことは自分でする習慣を身に付ける

●感謝　お詫び　承認　●早寝・早起き・朝ごはん　●家庭学習　●読書

すすんで学ぶ子

未来を創るために学ぶ子ども

持続可能な社会と自身の幸せで生きがいのある人生を創る資質・能力

① 目的・目標の実現に向け、知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の学びを主体的に得る。
② 学びをつかって粘り強く課題を解決していく。
③ 学び、解決できた自分のよさを実感する。

よりよく生きる子

豊かな心と健やかな体を追い求める子ども

健全で自立した個人かつ地域社会の形成者として必要な資質・能力

「自分も他者もかけがえのない大切な存在であるという認識に立ち、道徳的価値に向き合い、健康な心身の維持・向上に努め、様々な場や状況においていかに生きるべきかを自己選択・自己決定し、実践していく。

みんなでつくる子

協働して『千鳥』に働きかける子ども

未来に続く『千鳥』実現のために欠かせない資質・能力

『自分のみならず多様な他者や社会のために考え動く心のもと、よりよい『千鳥』の実現に向けて、課題を見出し、解決のための計画を立て、多様な立場の人と自他がもつ力を合わせて繰り返し関わりながら「もの、こと」を創り出す。

本年度の重点　学びの主体者として学習をよりよく調整しようとする子どもの育成

重点方策１	相手意識をもち、互いを認め合う支持的風土の醸成と、高め合う仲間づくりをめざす学級経営
重点方策２	他者や集団、社会とのよりよいかかわりの内容を重点とした人権教育、道徳教育の実践 自ら健康で丈夫な自分をつくる教科等と健康的行事の実践
重点方策３	個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実が図られた授業の改善 確かな学力の向上を図る学習指導の実施 複数の教師で一人の子どもを「みる」学習指導の実践
重点方策４	学びや取組を発表したり多様な人と交流したりする場がある単元、行事等の充実 自分たちで学校環境を改善していく活動の工夫
重点方策５	教育課題、経営課題の解決に向けた研修の実施 安全、安心の学校を実現させる組織的な取組の実施 学校、家庭、地域と共に育てる協働の教育活動の推進 教育活動の質を改善する評価システムの確立



千鳥校区コミュニティと共にある学校